

ゲンキ応援プロジェクト「健康計測会」

還元型CoQ 10でゲンキに！

町は、株式会社カネカ（東京都）と協同で地方創生事業「ゲンキ応援プロジェクト」に取り組んでいます。

町では、地方創生事業として、還元型コエンザイムQ 10を活用した、健康食開発に取り組んでおり、昨年度、町民30名を対象に実施した「還元型コエンザイムQ 10摂取モニタリング」で、モニターの方々に還元型コエンザイムQ 10の摂取試験を行いました。参加者からは「熟睡できるようになった」「疲労感がなくなった」「気持ちが明るくなった」など心身に良好な改善がみられました。

この結果を受け、今年度は株式会社カネカから還元型コエンザイムQ 10を無償提供いただき、希望する町民の皆さんに還元型コエンザイムQ 10のソフトカプセルを渡し、その効果を体感していただく新たな取組を行うこととなったものです。その取組の一環として、去る9月30日に、さまざまな健康器具を体験し身体機能などを測定する「健康計測会」を行い、町民約50名が参加しました。

参加者は、握力、ひざの力、太ももの力などの筋力測定のほか骨密度、10m歩行速度、肺年齢等の生活機能や記号と数字を組み合わせる頭の体操、自律神経状態などを測定し、それぞれ測定結果に一喜一憂していました。

株式会社カネカ担当者からは、「私たちの素材が町民の元気なまちづくりの一助となればと願っています。ぜひ多くの町民の皆さんにこのプロジェクトに参加していただきたい。」と話していました。

町では、「ゲンキ応援プロジェクト」の参加者を随時募集しています。町民であればどなたでも参加することができ費用もかかりません。このプロジェクトに興味のある方は、企画課までお問い合わせください。



▲カラマツ林の除伐作業

10月13日、日本たばこ産業株式会社と協働する「JTの森積丹／2018年秋」森林保全活動が催され、菊池孝徳総務担当執行役員をはじめとするJT社員やその家族の皆さん、町民など約120人が参加しました。

16回目を迎えた森林保全活動は、美川流域エリアで行われ、参加者はカラマツ林の除伐作業に汗を流しました。

午後からは「チーム対抗！いきもの探し&〇×クイズ」では、チームで協力しながらJTの森会場内の昆虫や落ち葉探し

第16回「JTの森積丹」秋の森林保全活動 カラマツ林の除伐作業



▲生きもの探しゲーム

し、JTの森にちなんだ動物や植物に関するクイズなどで得点を競い合いながら、森と親しむ時間を過ごしました。

参加者が心待ちにしていた昼食には、積丹町商工会女性部による、海の幸がたくさん使用された浜鍋が提供され、参加者から好評を得ていました。

今後もJTの皆さんをはじめ、国・道の関係機関、町民の皆さんの協力で、『JTの森積丹・海を育む水源の森』の実現を目指す取組を進めていきます。

平成30年度 美国川河川改修工事説明会

今年度は3工区を整備予定

10月11日、町総合文化センターで今年度の工事説明会が開催されました。

本工事は平成24年度から本格的に着手し、平成26年度からは、国道橋の工事に着手、昨年度に同橋が完成しました。北海道が実施する今年度の工事は、3工区に分けて工事を予定しており、第1工区は国道橋から下流の両護岸整備、

第二工区は上流部（新美国橋側）左岸（栄町地区）の護岸工事、第三工区として国道橋から上流部の両護岸を整備する予定です。

また、「美国川堤防通り線補償事業」の計画概要についても説明がありました。

この計画は「現堤防上の既存道路」を新たな築堤整備に併せて法面下に補償するもので、特に沿線町民の冬期間の不自由な生活の課題解消に向けて計画しているものです。

これら工事施行中は安全対策、濁水対策や汚水対策などに十分注意しながら工事を進めますが、今後、工事施行箇所周辺の町道通行規制も予定されていますので、町民の皆様のご協力をお願いします。



第48回後志中学校駅伝競走大会

後志大会優勝の快挙！ - 美国中駅伝部 -

美国中学校駅伝部が、9月13日に黒松内町で開催された第48回後志中学校駅伝競走大会に出場し、見事優勝に輝きました。

同部は、昨年からは美国中学校に着任し、前任地の倶知安中学校でも駅伝部を率いた金子康幸教諭の指導のもと、昨年、同大会に出場するも5位という結果でした。今年はメン

バーの一部を入れ替え、他の部活動と兼務になりながらも、7人の選手たちは7月25日から本格的に駅伝の練習に励んできました。しかし、一回の練習に充てられる時間は他の部活動開始前の約1時間、この少ない練習時間で優勝を狙うチームを目指すべく試行錯誤を繰り返してきました。

た。そして大会では、成田覚理君（3年）が区間1位を、入間川海星君（3年）が区間新記録を出すなど、素晴らしいチームワークで今回の栄冠を勝ち取りました。

区間新記録を樹立した入間川君は「走り終わった後はすごく苦しかった。野球のためにつけた体力が新記録という形になり嬉しい。」と話していました。

金子教諭は、これまでの練習や今回の結果を通して「普段の部活動の基本がしっかりとできていることが今回の結果に繋がったと思う。他チームよりも、みんなが頑張ろうという意識が強かった。陸上部並みの練習をしていたら全道の上位入賞も間違いない。」と話し、この約1カ月の間に成長し続けた選手たちを高く評価していました。

また、同部は10月21日に新得町で開催された第36回北海道中学校駅伝競走大会にも出場しました。こちらには入賞が叶いませんでしたが、選手たちは全道という舞台でまた一つ成長し、大きな経験となったようです。今回の選手たちの成長をたたえ、今後の活躍を温かく見守りましょう。



(奥左から) 木村海琉人くん(2年)、三上翔矢くん(2年)
佐藤大海くん(3年)、成田覚理くん(3年)
(手前左から) 入間川海星くん(3年)、安田友音くん(3年)
柏崎泰佑くん(3年)

姉妹都市交流

第37回刃物まつりへ参加

積丹町地域間交流推進協議会（会長：鎌田淳史町自治会等連合会長）や議員などの訪問団10名が、姉妹都市高知県香美市で10月20日・21日の2日間開催された「第37回刃物まつり」に参加し、「積丹町北海物産市場」を出店。積丹町産農産物や珍味、鮭のチャンチャン焼きのほか、昨年に続きザンギの販売を行い、積丹町のPR活動をしました。

21回目となる今回のPRブースの出店では、土佐山田婦人会や香美市職員の皆さんなどから協力をいただき、用意した商品は全て完売する盛況でした。

恒例のYOSAKOIソーラン祭りへの合同チームでの参加や、相互のイベントへの訪問、この冬には積丹町児童による香美市への訪問も予定されており、27年を数える北と南の交流がこれからも続きます。



～「世界一大きな絵」で世界平和に～ 全校児童が大きな絵を作成！

世界中の子どもたちが描いた絵を縫い合わせて一枚の絵にする「世界一大きな絵2020（主催：NPO法人アース・アイデンティティ・プロジェクト（東京都）」に町内全校児童が参加しました。

これは、世界の子子どもたちが国や宗教・人種を越えて一枚の「世界一大きな絵」を完成させ、世界平和への意識を高めることを目的としています。

町では各小学校が参加し、児童たちが積丹町をモチーフにしたデザインを決め、それをもとに各学校で分担して、5枚の布に絵を描き、10月1日、積丹町の大きな絵が完成しました。

完成した絵は、主催者へ送り、各地で制作された絵と繋ぎ合わせ、平成32年に発表される予定です。



▲児童が作成した「世界一大きな絵」

- ← 野塚小
- ← 美国小 (1～3年)
- ← 余別小
- ← 日司小
- ← 美国小 (4～6年)

北後志消防組合積丹支署（俵谷支署長・署員17名）は、9月25日、日司小学校で防災教室を行いました。教員が防災マスターの資格を持っていたため、消防隊員が補助に回り、教員が主体となって「DIG」という机上での訓練を行いました。DIGとは、参加者が地図を使って防災対策を検討する訓練で、「災害を理解する」「ま

ちを探索する」「防災意識を掘り起こす」という意味も込められています。児童たちは大きな地図を囲み、もし災害が発生したら、どこに逃げるのか、危険な場所はどこなのかなど、ゲーム感覚で災害時の対応を考えながら防災マップを作成しました。

同支署には防災マスターが2名いるので、今後はこのような取組も行っていきます。

日司小学校で防災教室

災害発生時の避難場所とは？

